

<特集「モダリティ」>

タガログ語のモダリティ Modality in Tagalog

竹村美宥
Miyu Takemura

東京外国語大学言語文化学部
School of Language and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨： 本稿の目的は、特集「モダリティ」(『語学研究所論集』第 16 号, 2011, 東京外国語大学) における 30 個のアンケート項目に対するタガログ語のデータを与えることである。

Abstract: This report aims to provide the Tagalog data which answers the thirty survey questions for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 16, 2011, which focuses on the cross-linguistic study of ‘Modality’.

キーワード： モダリティ, タガログ語

Keywords: modality, Tagalog

1. はじめに

本稿は『語学研究所論集』第 16 号の特集「モダリティ」に関する風間 (2011) のまえがきに提示されているアンケート項目に沿ってタガログ語のデータを提示するものである。

タガログ語は、フィリピン共和国ルソン島中部マニラ首都圏およびその近郊で話されている言語である。述語先行型言語であり、典型的な他動詞文では VSO の語順をとる。動詞はヴォイス、アスペクト、動作主性に関して語形変化する。行為ヴォイス (AV), 被動者ヴォイス (PV), 場所ヴォイス (LV), 移動物ヴォイス (CV) の少なくとも 4 つのヴォイスを区別する (Himmelmann 2005: 363)。格配列については行為者ヴォイスの場合、行為者が主格で、被行為者が属格で標示される。その他のヴォイスの場合、行為者が属格よって、被行為者が主格よって標示される。ムード・アスペクトについては *realis* と *irrealis*, *perfective* と *imperfective* の対立があり、その組み合わせによって完了相、継続相、不定相、未然相の 4 つの形式を区別する (表 1 を参照)。

表 1. タガログ語のアスペクト

	perfective	imperfective
realis	完了相	継続相
irrealis	不定相	未然相



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

タガログ語は文法的に関係をもつ語や文をつなぐ要素としてリンカーをもつ。リンカーは *nal-ng*¹ の 2 つの形式を持ち、音韻的に交替する (Schachter and Otnes 1972:107-108)。前接語である人称代名詞と小辞は、節の 2 番目の位置に現れる。接語同士での語順は音韻的または語彙的に決まっている (Schachter and Otnes 1972:183, 411)。

本調査には、タガログ語話者の Florinda Amparo A. Palma Gil 氏にご協力いただいた²。

2. 言語データ

(1) (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。【許可】

(Pagkatapos ng trabaho na iyan), puwede =ka =na=ng <um>uwi.
after GEN work LINK that can =2SG.NOM =already=LINK <AV.IRR>return

許可は、可能の擬似動詞³ *puwede* で表される。擬似動詞が用いられる際は共起する述語動詞は必ず不定相をとる。

(2) (腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない／それを食べるな。【禁止】

(Burok =na iyan, kaya) huwag =mo =na=ng kain-in.
rotten =already that so not =2SG.GEN =already=LINK eat-PV.IRR

禁止は、否定命令を表す *huwag* で表される。直後に 2 人称の代名詞とリンカーを伴い、動詞は義務的に不定相をとる。

(3) (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。【義務】

(Gabi =na, kaya) kailagan =na =nating <um>uwi.
night =already so need =already =1PL.INCL.GEN:LINK <AV.IRR>return

義務は、「必要である」という意味の擬似動詞 *kailangan* で表される。

¹ 本稿はタガログ語の正書法に従って表記する。[ŋ] は ‘ng’ で、複数標識の [maŋa] は ‘mga’ で表記される。属格の [naŋ] は ‘ng’ で表記されるが、副詞標識として用いられる場合は ‘nang’ と表記される。

² 本稿で用いる略号は以下の通り：ADJ-adjective, ADV-adverb, AV-actor voice, CAUS-causative, COND-conditional, CONT-continuous, DAT-dative, EXS-existential, GEN-genitive, IPFV-imperfective, INCL-inclusive, IRR-irrealis, LINK-linker, LOC-locative, LV-locative voice, NEG-negation, NOM-nominative, NVOL-non-volitional, PL-plural, PV-patient voice, Q-question, RL-realis, RPT-reportative evidential, SG-singular, 1-first person, 2-second person, 3-third person, “<>” -infix, “=” -cliticization, “~” -reduplication.

³ 擬似動詞は動詞のような意味をもつ形容詞クラスの要素である。一般的な動詞とは異なり、屈折しない (Schachter and Otnes 1972: 261)。

(4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。【推奨】

- a. (Mukha=ng u~ulan, kaya) mag-dala =ka ng payong.
seemingly=LINK IPFV~rain(AV.IRR) so AV.IRR-carry =2SG.NOM GEN umbrella
- b. (Mukha=ng u~ulan, kaya) siguro dapat mag-dala =ka ng
seemingly=LINK IPFV~rain(AV.IRR) so probably must AV.IRR-carry =2SG.NOM GEN
payong.
umbrella

推奨は、不定相を用いた命令文で表される。また、義務の擬似動詞 *dapat* を伴うこともある。

(5) 歳をとったら、子供の言うことを聞くべきだ／聞くものだ。【評価的義務】

- (Kapas t<um>anda =ka,) dapat pakingg-an =mo ang mga s<in>a~sabi
COND <AV.RL>age =2SG.NOM must listen-LV.IRR =2SG.GEN NOM PL IPFV<PV.RL>~say
ng mga bata.
GEN PL child

評価的義務は、義務の擬似動詞 *dapat* で表される。

(6) お腹が空いたので、(私は) 何か食べたい。【希望】

- Gutom =na =ako, kaya gusto =ko=ng k<um>ain.
hungry =already =1SG.NOM so want =2SG.GEN=LINK <AV.IRR>eat

希望は欲求の擬似動詞 *gusto* で直後にリンカーを伴って表される。=*ko* は節の 2 番目の位置に現れる人称代名詞前節語であるためこの文では、=*ko* にリンカーが接続している。

(7) 私が持ちましょう。【意志】

- Sige, ako =na ang mag-bu~buhat niyan.
ok 1SG.NOM =already NOM AV.IRR-IPFV~carry that

意志は動詞を未然相にすることで表される。

(8) じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。【勧誘】

- a. Sige, k<um>ain =na =tayo ng tanghalian.
ok <AV.IRR>eat =already =1PL.INCL.NOM GEN lunch
- b. Sige, sabay =na =tayo=ng k<um>ain ng tanghalian.
ok at.the.same.time =LINK =1PL.INCL.NOM=LINK <AV.IRR>eat GEN lunch

勧誘は、不定相と 1 人称包括的複数の代名詞=*tayo* で表される。「共に」の意味を表す *sabay* がリンカーを伴って挿入される場合もある。

- (9) 一緒に昼ご飯を食べませんか？【相手の意向が不明な場合の勧誘】

Gusto =mo =ba=ng sabay =tayo=ng mag-tanghalian?
want =2SG.GEN =Q=LINK at.the.same.time =1PL.INCL.NOM=LINK AV.IRR-eat.lunch

相手の意向が不明なときの勧誘は *gusto* を用いた疑問文に *sabay* を伴って表される。疑問の小辞=*ba* は、文頭から 2 番目(ただし、1 音節の人称代名詞や小辞がある場合はその次)の位置に挿入される。

- (10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。【希望】

Sana maganda ang panahon bukas.
wish good NOM weather tomorrow

希望は願望の小辞 *sana* で表される。

- (11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。【命令】

(Mag-hintay =ako rito, kaya) bilis-an =mo at dal-hin =mo iyan dito.
AV.IRR-wait =1SG.NOM here so hurry-PV.IRR =2GEN and bring-PV.IRR =2GEN that here

命令は不定相に 2 人称代名詞を伴って表される。

- (12) そのペンをちょっと貸していただけませんか？【懇願】

a. Puwde =ba=ng ma-hiram ang pen =mo nang sandali?
can =Q=LINK NVOL.PV.IRR-lend NOM pen =2SG.GEN GEN for.a.moment
b. Puwede=ng pa-hiram ng pen sandali?
can=LINK CAUS.IRR-lend GEN pen for.a.moment

懇願は、可能の擬似動詞 *puwede* に可能の意味をもつ無意志動詞を伴った疑問文で表される。また、*puwede* に使役動詞(この文では *pahiram* ‘lend’) を伴った疑問文で表されることもある。

- (13) あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。【能力可能】

Marunong =siya=ng mag-Chinese.
can =3SG.NOM=LINK AV.IRR-speak.chinese

能力可能は、可能の形容詞 *marunong* で表され得る。*marunong* を用いるとき動詞は必ず不定相をとる。能力可能を表すのに擬似動詞を用いる場合もあるが、この文においては「知っている、知識がある」という意味をもつ *marunong* が好まれて使われているのではないかと考えられる。

- (14) 明かりが暗くて、ここに何が書いてあるのか、読めない。【状況可能】

Madilim, kaya hindi =ko ma-basa kung ano ang naka-sulat dito.
dark so NEG =1SG.GEN NVOL.PV.IRR-read COMP what NOM ADJ-writing here

状況可能は無意志動詞で表される場合がある。可能の疑似動詞を用いて表す場合もあるが、無意志動詞を用いることで動詞自体で文のモダリティを表すことが出来る。

- (15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ/もう着いたに違いない。【確信】

- a. (Maaga =sila=ng <um>alis, kaya) siguro naka-rating =na
early =3PL.NOM=LINK <AV.RL>leave so probably NVOL.AV.RL-arrive =already
=sila.
=3PL.NOM
- b. (Maaga =sila=ng <um>alis,) malamang naka-rating =na
early =3PL.NOM=LINK <AV.RL>leave probably NVOL.AV.RL-arrive =already
=sila roon.
=3PL.NOM there

確信は、‘probably’ の意味を持つ副詞 *siguro/malamang* で表される。

- (16) (あの人は) 明日はたぶん来ないだろう。【推量】

- a. Siguro hindi (=siya) da~rating bukas.
probably NEG =3SG.NOM IPFV~come(AV.IRR) tomorrow
- b. Sa palagay =ko, hindi (=siya) da~rating bukas.
LOC opinion =1SG.GEN NEG =3SG.NOM IPFV~come(AV.IRR) tomorrow

推量は、副詞 *siguro* で表される。または、「私の考えでは」の意味の *sa palagay ko* で表す場合もある。

- (17) 彼らはまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。【疑念】

- a. Dahil wala =pa =sila, siguro baka na-sira-an =sila ng
because NEG.EXS =still =3PL.NOM probably maybe AV.RL-break-AV.RL =3PL.NOM GEN
kotse noong papunta sila.
car when bound.for 3PL.NOM
- b. Baka na-sira-an =sila ng kotse noong papunta sila, kaya
probably AV.RL-break-AV.RL =3PL.NOM GEN car when bound.for 3PL.NOM so
wala =pa =sila.
NEG.EXS =still =3PL.NOM

疑念は ‘maybe’ の意味を持つ副詞 *baka* で表される。‘probably’ の意味を持つ副詞 *siguro* と共に用いることで疑念の意味合いが強まる。

(18) (昼間だからあの人は家に) さあ, いるかもしれないし, いないかもしれない. 【可能性】

- a. (Tanghali kasi, kaya) baka wala =siya.
 midday because so maybe NEG.EXS =3SG.NOM
- b. Hindi =ako sigurado kung nandoon =siya (kasi tanghaling-tapat).
 NEG.EXS =1SG.NOM sure if there =3SG.NOM because midday

可能性は *baka* で表される。また, 否定辞 *hindi* と高い度合いの確からしさを表す *sigurado*, 間接疑問節を用いた形で不確かさを表現することで可能性を表すこともある。

(19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ. 【視覚／聴覚以外の感覚による判断】

- Mukha=ng may lagnat =ka.
 seemingly=LINK EXS fever =2SG.NOM

視覚／聴覚以外の感覚による判断は ‘seemingly’ の意味を持つ *mukha* で表される。元々, *mukha* は「顔」という意味を持ち, 視覚的類似性を表すが, 視覚以外の感覚による判断の場合にも用いることが可能である。

(20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ. 【伝聞】

- a. (Ayon sa taya ng panahon,) u~ulan =daw bukas.
 according.to LOC estimate GEN weather IPFV~rain(AV.IRR) =RPT tomorrow
- b. (Sabi sa taya ng panahon,) baka <um>ulan =daw bukas.
 say LOC estimate GEN weather maybe <AV.IRR>rain =RPT tomorrow
- c. (Ayon sa taya ng panahon,) mukha=ng u~ulan =daw
 according.to LOC estimate GEN weather seemingly=LINK IPFV~rain(AV.IRR) =RPT
 bukas.
 tomorrow

伝聞は, 伝聞の小辞=*daw* で表される。また, *mukha* で表されることもある。

(21) もしお金があったら, あの車を買うんだけどなあ. 【反実仮想】

- a. Kung may pera =lang =sana =ako, bi~bil-hin =ko ang sasakyan
 COND EXS money =just =wish =1SG.NOM IPFV~buy-PV.IRR =1SG.GEN NOM car
 na iyon=g kotse.
 LINK that=LINK car
- b. Kung may pera =lang =ako, baka b<in>ili =ko na iyon=g
 COND EXS money =just =1SG.NOM maybe <PV.RL>buy =1SG.GEN already that=LINK
 kotse.
 car

反実仮想は, 接続詞 *kung* を用いた従属節を伴って表される。願望を表す小辞=*sana* が共起すること

が多く, =*sana* は従属節内にも主節内にも現れ得る.

- (22) もしあなたが教えてくれていなかったら, 私はそこにたどり着けなかったでしょう. 【反実
仮想過去】

Siguro kung hindi =mo s<in>abi-han, baka hindi =ako naka-rating.
probably COND NEG =2SG.GEN <RL>say-LV maybe NEG =1SG.NOM NVOL.AV.RL-reach

反実仮想過去の場合は, 従属節内の動詞は完了相で表される.

- (23) (あの人は) 街へ行きたがっている. 【3 人称の主体による希望】

Gusto (=niya)=ng p<um>unta sa bayan.
want =3SG.GEN=LINK <AV.RL>go LOC city

3 人称の主体による希望は 1 人称による希望と同じく, 欲求の擬似動詞 *gusto* を用いて表される. 希望という行為の主体の格は, 動詞のヴォイスに対応して主格か属格で標示される.

- (24) 僕にもそれを少し飲ませろ. 【1 人称命令】

a. Pa-inom =naman kahit konti.
CAUS.IRR-drink =please even a.little
b. Pa-inum-in =mo =rin =ako niyan kahit konti.
CAUS-drink-AV.IRR =2SG.GEN =too =1SG.NOM that even a.little

1 人称命令は使役動詞を用いて表される. 発話者である 1 人称の代名詞は省略されることもある. 小辞=*naman* は, 不平を表す文において丁寧さを表す (Schachter and Otnes 1972: 405).

- (25) これはあの人に持って行かせろ/持って行かせよう. 【3 人称命令】

a. Ipa-dala =mo ito sa kanya.
CAUS.PV.IRR-take =2SG.GEN this DAT 3SG.DAT
b. Ipa-dala =mo =na =lang sa kanya ito.
CAUS.PV.IRR-take =2SG.GEN =already =just DAT 3SG.DAT this

3 人称命令は使役動詞で表される. 発話の相手である 2 人称の格は動詞のヴォイスに応じて主格か属格で標示される一方, 被使役者である 3 人称は動詞のヴォイスに対応して主格か与格で標示される.

- (26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい. 【遠未来命令形】

Mamaya =mo =na kain-in ang miryenda sa ibabaw ng mesa.
later =2SG.GEN =already eat-PV.IRR NOM snack LOC top GEN table

遠未来命令は, 近未来の命令と同様に動詞の不定相と 2 人称の代名詞で表される.

(27) もっと早く来ればよかった。【反実仮想】

Kung =sana d<um>ating =ako nang mas maaga.
COND =wish <AV.RL>come =1SG.NOM GEN more early

反実仮想は、条件をあらわす従属節のみで表される脱従属化が見られることもある。このような場合でも sana は共起することが多い。

(28) あなたも一緒に行ったら（どうですか）？【脱従属化】

- a. Kung s<um>ama =ka kaya?
if <AR.IRR>go.along.with =2SG.NOM suppose
- b. Bakit hindi =ka kaya s<um>ama?
why NEG =2SG.NOM suppose <AR.IRR>go.along.with
- c. Gusto ba=ng s<um>ama?
want Q=LINK <AR.IRR>go.along.with

提案の意味をもつ文では、(28a)のように脱従属化が見られる。又、(28b)の様に疑問詞 *bakit* と否定辞 *hindi* を用いた反語的表現あるいは(28c)のように *gusto* を用いた疑問文としても表され得る。また、(27)のように反実仮想の文でも脱従属化は見られる。

(29) オレがそんなこと知るか！【(疑問詞を含まない) 反語】

(Malay =ko =ba?) Pakialam =ko?
know =2SG.GEN =Q care =1SG.GEN

反語は疑問の小辞=*ba* を伴って表される。(29)は *ba* が省略されている慣用的な表現である。

(30) これを作った（料理した）のは、お母さんだよな？ / いいえ、私が作ったのよ。【付加疑問】

Si nanay ang nag-luto nito, di =ba? / Hindi, ako.
3SG.NOM mother NOM AV.RL-cook this NEG =Q NEG 1SG.NOM

付加疑問は否定辞 *hindi* の短縮形 *di* と疑問の小辞=*ba* で表される。

参考文献

- Himmelman, Nikolaus P. 2005. Tagalog. Alexander Adelaar & Nikolaus P. Himmelmann (eds.), *The Austronesian languages of Asia and Madagascar*, 350–376. London: Routledge.
- Schachter, Paul & Fe T. Otanes. 1972. *Tagalog reference grammar*. CA: University of California Press.

執筆者連絡先：takemura.miyu.t0@tufs.ac.jp

原稿受理日：2021年12月28日